

今回の表紙

円通院

(松島町)



三慧殿は宮城県下最古の霊屋建築としても有名。

3世紀の秘が守った伊達家の粋

伊達政宗公の嫡孫である光宗公の菩提寺として、松島に建立された円通院。国宝瑞巖寺に隣接し、光宗公の霊廟「三慧殿」は国の重要文化財に指定されています。

今では一般拝観が可能な三慧殿ですが、過去には3世紀に渡り秘蔵とされ、扉が公に開かれることはありませんでした。理由は厨子の扉に描かれた西洋水仙やバラの絵を見れば分かります。時は鎖国の時代。支倉常長が持ち帰った貴重な異国の品々も、すべて幕府に納めなければなりません。幕府に秘匿してまで厨子の内外に西洋のモチーフをふんだんにあしらった意図は、伊達家が苦勞して得た功績と文化を残したかったからでは、とも言われています。

こうして鎖国は伊達藩と常長達の偉業を歴史から長く消し去りましたが、皮肉にもこの「3世紀の秘」によって、三慧殿は驚くほど良好な保存状態が保たれました。伊達家の技術の粋を集めた造形と色彩とを、現代の私たちは鮮やかに窺うことができます。

さて、話を光宗公に戻しましょう。幼少より才気に溢れ、伊達家の正嗣として将来を囑望されるも19歳で没した光宗公の死因は、一説には暗殺であったとも言われています。光宗公の父、忠宗公の悲しみはいかばかりであったでしょう。名匠を集め、莫大な費用を掛けて建立された三慧殿には、愛息を失った父親の語りつくせぬ想いが、荘厳な美となって残されているように思えます。

歴史的な場所を訪れるとき、美しい景色の奥に、そこに関わった様々な人々の喜びや悲しみを見ることができません。だからこそ、私達の心を惹きつけて止まないのかもしれない。